

海第十五号の作品について

海のホームページには、「二ユース」等のコラムを設け、海の作品に対していただいた批評や感想等の内容の要旨を掲載し、同人個々の参考になるようにしています。

第十五号（通巻第八十二号）の作品に対しお寄せいただいた感想等の一部（抄）を、左記に掲載させていただきます。

御意見等をいただいた各位（お名前は略）に、心から感謝申し上げます。

◇エッセイの部

原 千里「最貧困女子」

・ 今日的問題を提起している。

井本元義「あちらこちら文学散歩」

・ 写真が入り、よりテーマが絞られた。

・ ランボオの魂に迫るものであり、作者の精神的青春性に満ちたものである。

赤木健介「ある患者の手記 第二回」

・ 作者の姿勢が前向きであり、同じ体験をするかもしれない読者に、有益な情報を提供している。

・ 医師と患者たちとの周辺を冷静に描き、貴重なドキュメント作品にした。

牧草 泉「書評『政治家として第一級の人物』」

・ 認知症になった「鉄の女」はよく書けている。

◇詩の部

群 青「はかりしれない」

・ 詩劇的構成の長編。力作である。
・ 直喩中心の文章はわかりやすい。

鳥井まみ「話つ花（六）」

・ 独自の色合いが出るまで、書き続けることを念頭に置いてほしい。

牧草 泉「針のない時計」ほか

・ じんわり胸に染みてくる。

・ 男女の掛け合いが楽しくやるせない。

◇小説の部

井本元義「偽手紙」

・ 清張の「或る小倉日記伝」を思わせる「偽手紙」という着眼が秀逸。
・ 虚実をないませにし、優れた作品に仕上げている。

・ 作者の知識、力量はすばらしい。
・ 今少し整理がなされれば、より高いレベルの作品になったであろう。

上水敬由「ふたつの残念な話」

・ 示唆に富むSF。文章は巧みである。

有森信二「落下」

・ いつも青春ものを書くのはなぜか。
・ 技術的には悪くないが、で留まる。
・ なにより、これらの身辺雑記風の記述から抜け出す工夫の必要があるう。

中野 薫「罰法転動」

・ 主人公の正義感の強さは魅力でもあり、少し押さえるべき点でもあろう。

・ 多くの作品が書けるだろう、との期待を抱かせる。

牧草 泉「ある男の映像」

・ 女心を読めなかつた男の話。

・ 心理を追う描写は巧みである。

高岡啓次郎「月光の影（一）」

・ ドラマ作りの醍醐味を感じさせる。
・ 表現巧者のこれからの楽しみである。

◇海全体の部

・ 編集面に努力の跡が感じられる。
・ 個性ある作者が競作するという、同人誌らしさを見せ始めた。

（まとめ・有）